

## 無痛分娩マニュアル（一部抜粋）

### 1. 無痛分娩への案内

- ・ 妊婦健診時、無痛分娩案内のパンフレットを妊婦に案内し、出産時の希望時に添えるよう支援する。
- ・ 無痛分娩を希望された場合「無痛分娩クラス」へ受講案内を行う。妊婦自身やその家族が無痛分娩についての流れ、分娩進行の特徴、注意事項など無痛分娩に対する理解が深まるよう支援する。
- ・ 「無痛分娩クラス」受講後、当院での入院出産・無痛分娩を計画された場合、医師から「無痛分娩に関する説明同意書」を用い十分に説明を行う。助産師は妊婦の希望や背景に合わせて意思決定が行えるよう情報提供や看護指導を行う。

### 2. 入院分娩期

- ・ 無痛分娩同意書を確認する。
- ・ アレルギーや採血結果など患者情報を確認する。
- ・ 処置、出産にかかる日常生活の過ごし方・注意事項などのオリエンテーションを行う。
- ・ 最終の食事摂取時間の確認。
  - 緊急対応に備え禁食だが、お茶、スポーツドリンク、果肉を含まないジュース、クラッシュタイプゼリーなどの嚙まずに飲み込める流動的なものの摂取を勧め、エネルギー補給も努める。（HDP や GDM など食事指示が出ている合併症はこの限りではない）。
- ・ 処置前の排尿を促す。
- ・ 安静度、分娩着衣、過ごし方などを説明する。
- ・ 処置開始までは、産痛緩和ケアやリラックスを促すためのケアを行う。
- ・ 妊婦の状態に応じ、麻酔科医と情報共有し緊急体制に備える。
- ・ 内診所見や進行予測を産婦に伝え、希望と合わせて硬膜外麻酔カテーテル挿入時期などを産婦、医療スタッフと共有する。

### 3. 硬膜外鎮痛処置

#### 【準備】

- ・ 硬膜外麻酔カテーテル挿入前に、産婦の排尿時間、最終食事時間を確認する。
- ・ 処置（分娩室）に案内する。
- ・ 末梢血管ルートの確保（20G）を行い、補液（細胞外液）を行う。
- ・ CTG 装着・生体監視モニター（血圧、脈拍、SpO<sub>2</sub>）を装着、自動血圧計は5分間隔で測定する。
- ・ 硬膜外処置物品、救急カートなどの準備。
- ・ 室温や処置時の露出に配慮した環境整備を行う。

### 【カテーテル挿入手順】

- ・体位（座位若しくは側臥位）への介助。
  - 背中を露出するが、できるだけ分娩着は片袖を抜いた状態にし、バスタオルなどを使って保温や露出を最小限にするよう配慮する。
- ・タイムアウトの実施。
- ・処置時のマキシマルプリコーションの介助を行う。
- ・声掛けなど手順に準じたケアを行う。
  - 局所麻酔中毒症状 耳鳴り、金属味、口唇周囲の違和感への注意。
- ・薬剤の投与時に、バイタルサイン測定を実施・記録する。
  - 処置開始 30 分間は血圧測定間隔を 5 分間隔で測定する。
  - 心拍数、SpO<sub>2</sub>は連続装着、測定する。
- ・カテーテル挿入位置の確定後、ドレッシング剤にて固定を行う。
- ・処置後の MDRPU の有無、カテーテル位置確認、カテーテルのねじれや屈曲が無いことを確認する。

### 【鎮痛導入後】

- ・硬膜外挿入中の注意点を説明する。
  - 硬膜外カテーテルを引っ張らない、引っかけないよう注意すること。
  - 携帯用薬液連続注入器の入った袋は開けないこと。
  - PCA ポンプの使い方。
  - ロックアウトタイム等。
  - 清潔ケアは必要時には看護師が介助すること。
  - 2～4 時間間隔の導尿。
- ・症状出現時はすぐに知らせることを説明する。
  - 背中や寝衣の濡れ。
  - PCA 薬液連続注入器の入った袋などの濡れ。
  - 挿入部痛や背中での激しい痛み。
  - 頭のフラつき、頭痛。
  - 嘔吐、悪心。
  - 効果の得られない痛み NRS 評価。
- ・モニタリング
  - 口頭での鎮痛評価 NRS：1 時間ごと、または必要に応じて記録。
  - バイタルサイン 心拍数、血圧、SpO<sub>2</sub>：1 時間ごと、または必要に応じて記録。

#### 4. 医師への緊急連絡

- ・ 血圧低下や局所麻酔薬中毒を疑う場合。
- ・ 胎児一過性除脈または胎児徐脈を認めた場合。
- ・ PCA 2回 Push で鎮痛効果が得られない場合。
- ・ 添加した麻薬による痒み、麻薬や仙骨領域までの麻酔の影響による尿閉、麻薬や副交感神経刺激による嘔気嘔吐など合併症発生の場合。
- ・ 過強陣痛の場合。

#### 5. 分娩終了後

- ・ 分娩様式、Apgar score、臍帯動脈血液ガス所見等を助産録に記録する。
- ・ 会陰縫合が終了したら持続硬膜外注入は原則終了とする。  
縫合が終了、分娩担当医のカテーテル抜去時に介助し、先端部分を確認する。
- ・ カテーテル抜去後は刺入部をドレッシング剤にて貼付する。
- ・ 初回歩行は下肢の運動機能の回復や起立性低血から転倒リスクがあることに注意し、リスク評価後に実施する。

2025. 4. 24